

尾張北部圏域地域アドバイザー報告

今年度のアドバイザー会議では、「精神障害者の地域移行」および「障害者支援施設（入所施設）からの地域移行」を重点検討事項として協議しています。会議での検討内容やそこから見える課題について報告いたします。

①精神障害者の地域移行

精神障害者の地域移行については各圏域とも、継続的な取り組みを行っています。

研修等を経年的に行った結果、以前は地域移行の支給決定数が1～2件だったのが、20件程度まで伸びた圏域もあります。

今年度は、「ピアサポーター」を上手く活用して、地域移行を後押ししようとする圏域があるようです。他にも基幹相談支援センターが保健所職員と一緒に病院訪問をし、退院可能な患者を把握している市町もあります。

ただ、どこの市町も社会資源の不足による困難さには直面しているようです。また、医療機関によっては地域移行に消極的な精神科病院があり、それも退院を阻害する要因ともなっています。

当圏域では、春日井保健所・江南保健所が事務局となって、地域の相談機関も協力し、地域移行に関する研修を実施してきました。今年度も効果的な方策を検討していますので、時期をみて、みなさまに報告したいと思います。

②障害者支援施設（入所施設）からの地域移行

今年度は入所施設からの地域移行についても検討しています。こちらについては、どの圏域もかなり苦戦をしているようです。その大きな理由として、自身で地域移行の意向を明確に表出できる方については、既に退所しており、現在、入所施設に残っているのは、高齢な方や、非常に手厚い支援が必要な方だからです。ただ愛知県の調査によれば、県内で177人の施設入所者が地域移行を希望しており、何かしらの支援が必要とも考えられます。

圏域によっては今年度より国から打ち出された、「市町によるモニタリングの検証」を通じて、施設入所者のニーズ等を再整理しようとする動きもあるようです。

③地域生活支援拠点の整備

障害児者の重度化、高齢化や「親亡き後」を見据えた、「居住支援の機能強化」として、「地域生活支援拠点」の整備が障害福祉計画の中で打ち出されています。

上述した地域移行ですが、この地域生活支援拠点の整備と深くリンクしてきます。つまり、地域生活をする際の課題やハードルが、地域生活支援拠点を考える際の材料の一部にもなり得るからです。

地域生活支援拠点そのものについて考えると、漠然としていてイメージが湧きにくいです。しかし、まずは「障がいのある方が、地域（在宅）生活を継続するのに、何が課題なのか」を考えることで、よりよい地域生活支援拠点の整備や運営に繋がっていくことと思います。

一般相談支援事業について

集計期間：平成30年1月から7月
対象事業所：委託相談支援事業所

①相談人数

	障がい児							障がい者						
	身体	重身	知的	精神	発達	高次脳	その他	身体	重身	知的	精神	発達	高次脳	その他
ハートランド	12	0	4	0	2	0	3	21	130	0	10	2	0	0
サンフレンド	0	11	52	0	5	0	2	70	21	5	239	34	15	10
本庄プラザ	0	0	0	0	0	0	1	1	17	0	12	355	7	3
ふれあい総合相談支援センター	1	3	10	3	15	1	7	40	51	0	52	108	7	0
合計	13	14	66	3	22	1	13	132	219	5	313	499	29	13

②支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	その他	合計
ハートランド	33	39	4	303	1	1	6	2	389
サンフレンド	195	64	29	1,002	73	23	331	3	1,720
本庄プラザ	118	151	24	806	4	12	552	0	1,667
ふれあい総合相談支援センター	142	105	71	544	3	10	518	33	1,426
合計	488	359	128	2,655	81	46	1,407	38	5,202

③支援内容

	福祉サービスの 利用等に関する 支援	障がいや病状の 理解に関する 支援	健康・医療に関 する支援	不安の解消・情 緒安定に関する 支援	保育・教育に関 する支援	家族関係・人間 関係に関する 支援	合計
ハートランド	256	2	33	11	27	20	
サンフレンド	871	22	106	87	55	68	
本庄プラザ	255	189	204	353	3	102	
ふれあい総合相談支援センター	721	29	157	143	44	29	
合計	2,974	264	606	681	184	287	
	家計・経済に関 する支援	生活技術に関 する支援	就労に関する 支援	社会参加・余暇 活動に関する 支援	権利擁護に関 する支援	その他	合計
ハートランド	0	19	11	1	6	3	389
サンフレンド	59	47	247	0	5	153	1,720
本庄プラザ	119	151	126	37	19	109	1,667
ふれあい総合相談支援センター	100	36	54	2	9	102	1,426
合計	337	300	685	40	44	520	5,202

一般相談支援事業について

集計期間：平成29年1月から7月
対象事業所：委託相談支援事業所

①相談人数

	障がい児							障がい者						
	身体	重身	知的	精神	発達	高次脳	その他	身体	重身	知的	精神	発達	高次脳	その他
ハートランド	13	4	5	2	9	0	2	35	160	35	25	0	0	1
サンフレンド	0	4	52	0	5	0	2	63	9	5	212	20	8	1
本庄プラザ	0	0	0	0	0	0	0	18	0	12	315	9	6	1
ふれあい総合相談支援センター	5	1	31	2	9	0	0	48	42	5	63	157	10	0
合計	18	9	88	4	23	0	4	146	229	45	312	492	27	15

②支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	その他	合計
ハートランド	97	101	0	676	0	0	32	33	939
サンフレンド	98	59	16	882	32	28	264	2	1,381
本庄プラザ	155	188	45	1,090	11	16	858	0	2,363
ふれあい総合相談支援センター	131	103	88	399	0	30	730	21	1,502
合計	481	451	149	3,047	43	74	1,884	56	6,185

③支援内容

	福祉サービスの 利用等に関する 支援	障がいや病状の 理解に関する 支援	健康・医療に関 する支援	不安の解消・情 緒安定に関する 支援	保育・教育に関 する支援	家族関係・人間 関係に関する 支援	合計
ハートランド	597	4	44	19	25	8	
サンフレンド	791	19	107	55	35	49	
本庄プラザ	354	161	300	637	0	182	
ふれあい総合相談支援センター	691	31	197	98	57	88	
合計	2,433	215	648	809	117	327	
	家計・経済に関 する支援	生活技術に関 する支援	就労に関する 支援	社会参加・余暇 活動に関する 支援	権利擁護に関 する支援	その他	合計
ハートランド	4	30	23	0	6	179	939
サンフレンド	17	35	227	0	0	46	1,381
本庄プラザ	99	215	122	57	85	151	2,363
ふれあい総合相談支援センター	87	73	94	9	46	31	1,502
合計	207	353	466	66	137	407	6,185

一般相談支援事業について

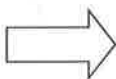
④特色及び傾向

ハートランド ・親の病気や高齢化に伴い、在宅生活が困難になったため、入所を希望されるケースが増えているや、成年後見制度、専任引受人制度の問合せが増えている。 ・補装具の購入や修理について、本人や家族の代わりに書類上の代行手続きや調整などを行った。 ・入所している方の自立支援に伴う、就労や住居の確保に苦慮するケースが出てきている。 ・既存利用者が、ADLの低下や高齢化に伴い、医療的ケアが必要となり、今後の生活について、総合的なマネジメントが必要になった。 ・障がい児について、家族の就労や療育を目的とした通所系のサービス利用の相談がある。	サンフレンド ・サンビレッジ障害者支援センターが開設したことにより、近隣の方からの相談が増えた。また、相談窓口が増えたことで、相談件数も比例して増えている。 ・サンビレッジ、サンフレンドともに児童の相談が例年に比べて多かった。また医療的ケアを必要とする重症心身障害児のケース依頼もあった。 ・生活の場（施設入所支援、共同生活援助ともに）に関する相談が多かった。 ・施設入所支援の利用希望がある方の地域生活支援に苦慮するケースが数件あった。（継続支援中） ・特別支援学校卒業後の進路相談として、地域の福祉的就労の場の利用についての相談があった。 ・就労支援において、主に精神障がいの方でさまざまなトラブル等で就労支援事業と連携する機会が増えた。
本庄プラザ ・一人暮らしの方からの不安解消のための電話は引き続き多い。話を受容することで地域での生活を継続することができている。 ・就労系の事業所からの紹介で相談支援につながるケースが増えている。また、就労支援で就業・生活支援センターと連携するケースが増えている。 ・住まいや借金の課題を抱えている女性のケース。住まいはグループホームを捜すことになったが、市内で入居可能なホームがなかったため市外のホームに入居した。これまでの関わりがあるため借金整理の支援についても本事業所が中心に関わっていく予定となっている。 ・親にき後の財産管理や、当事者の破産手続き支援などの相談等があり、弁護士や法テラスなど司法に関わる機関との連絡調整が増加している。精神障がいを抱える当事者は判断能力やコミュニケーション能力が低下傾向にあるので、支援者が間に入ることで手続きが円滑に進んでいると感じている。	ふれあい総合相談支援センター ・市内に計画を作成できる事業所が少なく、どの事業所も多くの利用者を抱えているため引き継ぐことが困難であり、市外の事業所に引き継ぐことが多くなった。市内に計画を作成する事業所が少ないことは課題。 ・精神病院に入院している知的障がい者の退院先について一人暮らしが困難であるため市内、市外を問わず施設入所がグループホームなどを探しているが見つからない。また、施設入所がグループホームのどちらが妥当なのか判断に苦慮するケースがある。 ・疾病や障がいがある利用者支援するひとり親も何らかの問題がある家庭の相談が増えてきたと感じている。 ・外国籍（日本語が理解できない）の方の福祉サービス利用の障害サービス調整。

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	①実施して気づいたこと ②評価 ③調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、(第1期小牧市障がい児計画)
事業所の理解促進	障害者雇用支援月間(9月)時にポスター掲示	障がいのある人の雇用促進に関する広報・啓発活動に取り組み、企業等の理解・協力を推進	9/12配布	ポスターを事業所に配布		P38(1)	P55(1)
就労施設への支援	障がい者が働く事業所ガイドブックの更新・発行	一般企業や、働きたいと思っている障がいのある人への情報発信	H30.3月に更新	小牧市及び小牧市社会福祉協議会のホームページに掲載した。また、小牧市商工会議所の会員メールマガジンにも掲載した。	利用者が事業所を選ぶ際のツールとして活用されている。今後も年1回情報を更新していく。	P38(2)	P43、P44(4)①～④
障がい者雇用の推進	①就労継続支援事業所から一般企業に就職した方のアンケート実施(更新)	①就労移行支援、就労継続支援A型・B型から一般就労の機会の拡大や職場定着	9月中に更新	アンケート実施中		P38(3)	P43、P44(4)①～④
	②障害者雇用推進セミナー開催の協力	②一般企業からの障がい者雇用促進	H30.2/23開催	①就労系事業所ワークショップ ②講演会Ⅰ「これからの障がい者雇用について」 ③講演会Ⅱ「障がい者雇用の取組より、これからを考える」 参加者：約120名	①福祉・行政・企業の方々と会う機会ができ、交流が深まった。 ②参加者が昨年度よりも減った。セミナー内容に関して工夫が必要。		
学校との連携	特別支援学校との情報交換会の実施	①市内の卒業生の進路確保 ②進路指導担当と情報共有、事業所のPR	H30.1/17実施	進路指導担当に小牧の事業所を紹介 参加者：35名(事業所、進路担当、行政)	①学校も事業所も毎年、継続して情報交換会を希望。 ②小牧市は、障害福祉サービス事業所の横のつながりが強い。	P42(6)	P40(1)⑤

○来年度以降の数値目標(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)

指標	基準値(H28)	数値目標(H32)
一般就労移行者数	11人	17人
就労移行支援事業利用者数	21人	26人



【参考】平成29年度サービス量及び平成30年度以降のサービス見込量

(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分		単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
			見込	実績			
就労継続支援A型	利用者数	人	168	166	176	185	194
	利用日数合計	日	3,362	3,263	3,530	3,707	3,892
就労継続支援B型	利用者数	人	149	152	164	180	198
	利用日数合計	日	2,580	2,599	2,838	3,122	3,434
就労移行支援	利用者数	人	23	25	24	25	26
	利用日数合計	日	359	402	386	416	447

平成30年度 日中活動系連絡会事業計画実施状況 ～障がい者にとって安心できる居場所を確保する～

期間：平成30年1月から7月

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	①実施して気づいたこと ②評価 ③調整会議で意見をもらったこと	参考（第3次小牧市障がい者計画）	参考（第5期小牧市障がい福祉計画）、（第1期小牧市障がい児計画）
福祉人材の確保	福祉・介護の就職フェアの開催	①介護・福祉人材不足解消 ②福祉・介護の魅力PR	5/31実施	市内介護保険サービス事業所連絡会事業と合同で福祉・介護の就職フェアを開催 会場：小牧市公民館 来場者：49名 参加事業所：26事業所	①学生の来場が少なかった。 ②主婦が多く来場した。 ③地元の方が多く来場された。 ④6名の方の就職につながった。 ⑤市内介護保険事業所も一緒に出展した。集客率アップにつながった。	P35（5）	P39、P40（1）②、③（2）①～③
防災への取組み	災害時備蓄品リストの更新	災害時に事業所同士が助け合う為の情報共有	H30.3月に更新	備蓄品チェックリストを更新：13事業所	①事業所の備蓄品を共有できた。 ②共有した備蓄品をどう生かしていくか決めていない。	P50（3）	
学校との連携	特別支援学校との情報交換会の実施	①市内の卒業生の進路確保 ②進路指導担当と情報共有、事業所のPR	H30.1/17実施	進路指導担当に小牧の事業所を紹介 参加者：35名（事業所、進路担当、行政）	①学校も事業所も毎年、継続して情報交換会を希望。 ②小牧市は、障害福祉サービス事業所の横のつながりが強い。	P42（6）	P40（1）⑤
サービスの質の向上	事業所相互の見学（出張連絡会を含めた）	サービス事業者が支援に係る知識の習得や技術の向上	9/18実施	サンビレッジで見学会		P41（3）	P40（2）②

【参考】平成29年度サービス量及び平成30年度以降のサービス見込量

（第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より）（年間におけるひと月あたりの平均）

区分	単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
		見込	実績			
生活介護	利用者数	人	258	258	265	272
	利用日数合計	日	5,035	4,969	5,171	5,311

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	実施して気づいたこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、(第1期小牧市障がい児計画)
相談員の質の向上	・障害者総合支援法一部改正について知る ・情報交換	お互いに情報を得ることで、相談員として必要な知識を得る	1/17	・法改正について市から説明 ・グループに分かれてモニタリングについてや、高齢者と障害者支援の違いについての情報交換を行った			
	研修会の開催(年2回) ①障害者総合支援法一部改定について	障害者相談支援専門員の質の向上と人材育成	7/2	市役所よりH30年度から報酬請求変更の説明	H30年度より国民健康保険団体連絡会が計画、モニタリング月請求管理する	P29、P52(2)	P41(3)、P52(5)、P55(3)、P64(1)
	②検討中(連絡会員からの意見により決定していく)	障害者相談支援専門員の質の向上と人材育成	下半期実施				
	事例検討会の実施(年4回)	①困難事例のケース検討を行い、多くの相談員のアイデアで打開策を探る	4/26 7/2	第1回事例検討会実施 参加者：14名 第2回事例検討会実施 参加者：16名		P53(4)	P41(3)、P52(5)、P55(3)、P64(1)
		②相談員一人ひとりの提案力、課題解決力の向上を目指す	下半期実施予定				
	就労支援連絡会、日中活動系連絡会、こども連絡会との連携	①他の関係機関との情報交換を行い、連携を図る ②相談支援事業所連絡会より各連絡会へ検討すべき課題を提案していく	随時	委託相談支援事業所の相談員が、各連絡会にオブザーバーとして出席	情報交換はできているが、検討すべき課題抽出には至っていない	P41(2)、P42(6)、P53(4)	P40(1)⑤、(3)、(4)、P55(3)

○来年度以降の方向性(第3次小牧市障がい者計画より)

指標	基準値(H28)	目指す方向性
障害福祉サービス支給決定者に占めるサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成者の割合	73%	

【参考】平成29年度サービス量、来年度以降のサービス見込量

(第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分		単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
			見込	実績			
計画相談支援	利用者数	人	98	100	105	113	121
障害児相談支援	利用者数	人	32	33	35	39	43

区分		単位	平成29年度 受給者証発行 (H30.3.31時点)	平成29年度 セルフプラン (H30.3.31時点)	セルフプランの 割合 (H30.3.31時点)
				実績	
障害福祉サービス受給者証	発行者数	人	823	195	23.6%
通所受給者証	発行者数	人	416	202	48.6%

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	① 実施して気づいたこと ② 評価 ③ 調整会議で意見をもらったこと	参考(第3次小牧市障がい者計画)	参考(第5期小牧市障がい福祉計画)、 (第1期小牧市障がい児計画)
ネットワークの構築	関係機関との情報交換、連携の為に意見交換	① ライフステージにおける切れ目ない支援				P40(1)	P40(1)⑤
		② 関係機関の情報共有、課題整理、連携	2/7	平成29年度第4回こども連絡会で、市内の児童発達支援、放課後等デイサービス事業所がお互いに行っている内容、工夫していることなどを共有した。	それぞれの事業所や機関の特徴や工夫を学ぶことができた。		
			5/22	平成30年度第1回こども連絡会で情報交換、意見交換を行った。 ① 外国人へのサポート ② ボランティアとの交流 ③ 地域の活動への参加の仕方 ④ 医療的ケア児への対応 ⑤ 災害時について 第1回参加者42名	① 外国人が多いため契約時の書類等の翻訳、通訳があるとよい。 ② 絵画等の先生に来てもらったり、地域を交えてのお祭りを開き、ボランティアで参加等。 ③ 地域の公園に出掛けたり、プラネタリウムに行ったり、地域の祭りへの参加や、事業所自ら公民館を借りてイベントを実施している所もある。 ④ 医療的ケア児の受け入れ先が少ない。 ⑤ 他市に出掛け地震や台風の台風の体験を行った。また、送迎を行っている事業所は大雨警報のみではなく、浸水情報や通行止め情報が必要。		
障がい児支援 早期療育の充実	成長記録ノートの活用継続と学校に繋げる取り組み	ライフステージにおける切れ目ない支援				P41(2)	P40(1)⑤、 P41(4)、 P64(1)
	「はじめのいっぽ」作成	子育て支援・教育・相談等のサービス、医療機関等の情報提供	編集会議進行中	印刷業者決定、各機関で内容確認を行っている。	4年に一度の改定で、確認作業を行い、内容が変わった所が多くあった。		
	相談支援事業との連携	相談支援事業所への情報提供と障害児通所事業所相互の質の向上を目指す					
サービスの質の向上	事例検討・研修の実施(強度行動障害への支援、グレーな子への支援、医療的ケア児の支援等)	サービス事業者等の質の向上	下半期実施予定			P41(3)	P40(1)④、 P41(3)
子ども・子育て支援における障がい児の受け入れ推進	事例検討・研修(障がいの理解を拡げる取り組み・キャラバン隊等)	保育園・幼稚園・こども園・児童クラブ・放課後子ども教室等における障がいの理解と適切な受け入れ促進	3/8	「発達障がいの治療について学ぶ研修会」の実施 参加者40名	薬の服用をすることのメリット、デメリット等を学んだ。	P42(4)	P55(1)、 P65(1)、 (2)
学校との連携	① 事例検討・研修会の実施 ② 成長記録ノートの活用 ③ 性の研修(学校への呼びかけ) ④ 就労支援事業所との交流	乳幼児期から学校また卒業後の場を知り合い、繋がり、連携する。	① 下半期実施予定 ② 下半期実施予定 ③ 下半期実施予定 ④ 下半期実施予定			P42(6)	P40(1)⑤、 P41(4)

【参考】平成29年度サービス見込量及び平成30年度以降のサービス見込量

(第5期小牧市障がい福祉・第1期小牧市障がい児計画より)(年間におけるひと月あたりの平均)

区分		単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
			見込	実績			
児童発達支援	利用者数	人	68	80	74	81	89
	利用日数合計	日	694	780	758	828	904
放課後等デイサービス	利用者数	人	276	280	304	334	367
	利用日数合計	日	3,787	3,852	4,166	4,582	5,040

小牧市障がい者計画	取組み	目的・ねらい	実施有無	行なった内容	①実施して気づいたこと ②評価 ③調整会議で意見をもらったこと	参考（第3次小牧市障がい者計画）	参考（第5期小牧市障がい福祉計画）、（第1期小牧市障がい児福祉計画）
障害福祉サービス（訪問・日中活動系）等の充実	訪問系サービス事業所同士の意見交換会	地域での自立した暮らしを支える居宅介護、重度訪問介護、訪問看護、訪問リハビリなどの訪問系サービスと情報共有、情報交換、課題の共有。	7/11実施	在宅サービス事業所と相談支援専門員との連携で情報交換会を実施。 参加者：24名	①サービス等利用計画の内容が在宅サービス事業所に伝わらない。わかりにくい。 ②相談支援専門員は、連携の要。 ③市内の在宅サービス事業所が少ない。 ④医療的ケアができる居宅介護事業所がない。	P35(2)	P40(2)①、P48(1)
相談先の周知	福祉サービス事業所一覧作成、発行	①民生委員、地域包括支援センター等が地域での見守り活動を通じて支援が必要な人を発見した場合、速やかに相談期間へつなぐ。 ②広く市民に障害福祉サービス事業所を周知する。	7月より実施	①、②市内6地区の民生委員・児童委員連絡協議会で相談支援事業所をPR。	知的や精神の障がいがどのような症状、状態なのか市民に知られていない。	P53(3)	P39(1)②、P55(1)、P67・3
			7月より実施	①、②北里・西部地区のサロン専門職相談や福祉出前講座で相談支援事業所をPR。 3箇所（北里・藤島団地、西部・間々子育て、西部・元町）	①少数ではあるが、障がいに関する相談はある。 ②障害相談支援事業所が市民にあまり知られていない。		
			進行中	②福祉サービス事業所一覧作成			
障がいに関する理解の促進	ヘルプマークの配布	義足や人工関節、内部障害や難病、精神障害、知的障害または妊娠初期の人等、援助や配慮を必要としていることが外見では分からない人々が、周りに配慮を必要とすることを知らせることで、援助が得やすくなる。	7月より実施	市役所長寿・障がい福祉課で配布		P32(2)	P55(1)

【参考】平成29年度サービス見込量及び平成30年度以降のサービス見込量（第5期小牧市障がい福祉計画・第1期小牧市障がい児福祉計画より）（年間におけるひと月あたりの平均）

区分		単位	平成29年度		平成30年度	平成31年度	平成32年度
			見込	実績			
居宅介護	利用者数	人	225	314	231	236	242
	利用日数合計	日	5,503	5,244	5,641	5,782	5,926
重度訪問介護	利用者数	人	3	7	4	4	5
	利用日数合計	日	903	964	1,084	1,300	1,560
同行援護	利用者数	人	11	12	12	13	15
	利用日数合計	日	152	166	167	184	202
行動援護	利用者数	人	4	3	4	5	5
	利用日数合計	日	159	130	175	192	212

★平成30年度

小牧市障害者自立支援協議会事業進捗状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会		5/14					10/15				2/25	
調整会議	4/16					9/7				○		
就労支援連絡会			第1回 6/13			第2回 9/12			第3回 12/12			第4回 3/13
日中活動系連絡会	第7回就 職フェア 作業部会 4/3	第8回就 職フェア 作業部会 5/17 第1回 5/17 就職フェア 5/31	第9回就 職フェア 作業部会 6/25			第2回 9/18			第3回 12/18			第4回 3/19
相談支援事業所 連絡会	第1回事例 検討会 4/26			第2回事例 検討会 7/2			第3回事例 検討会 10/25	○		○	第4回事 例検討会 ○	
こども連絡会		第1回 5/22					第2回 10/2 事業所 交流会 10/29			第3回 1/30		
居宅介護・訪問看護・ 訪問リハビリサービ ス事業所と意見交換 及び情報交換会				7/11								
小牧市福祉サー ビス事業所一覧 作成									完成→			

●小牧市「福祉・介護就職フェア」まとめ

■来場者アンケート集計結果

来場者24名回答

問1 性別

男性	女性
8	16

問2 住所地

小牧市	犬山市	春日井市	岩倉市	北名古屋市	大口町	扶桑町	豊山町	名古屋市	その他
16	0	3	0	0	0	1	0	0	4

問3 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
0	9	4	3	4	2	2

問4 現在の就労状況

大学生	専門学校	高校	他業種就労中	福祉介護系に就労中	未就労
2	1	1	4	1	15

問5 資格取得状況

社会福祉士	介護福祉士	保育士	看護師	その他	資格所持していない
0	8	3	3	7	7

問6 どの分野の就職を希望

高齢	障がい	児童	他業種
11	6	5	2

問7 就職フェアを知った経緯

チラシ	小牧市広報	こまき社協だより	市ホームページ	社協ホームページ	中日新聞	市役所	市内各市民センター	スーパー	学校	その他
9	5	0	0	1	1	1	1	1	1	7

問8 就職フェアの主な感想、ご意見等

- ・介護、福祉のフェアに初めて参加したのですが、いろいろ情報、発見があり、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・話を丁寧に教えてくれてありがたかったし、機会があれば就労したいと思います。少し前進できたかもしれません。
- ・就活を始めた身なので開催してただけで助かりました。
- ・一度の機会に多くの施設を見ることができて参考になりました。
- ・担当者から詳しく教えて頂き、思っていた内容と違っていたので聞いてよかったです。
- ・資格取得の専門学校なども紹介が欲しい。

□ご出展法人アンケート集計結果

※26法人中26法人より回答

1. 面談者数

	一般(シニア)※60歳以上	一般(主婦)	一般(シニア、主婦以外)	学生	合計	男・女合計
男性	16	0	16	1	33	124
女性	16	56	14	5	91	

※重複あり

2. 来年度以降の就職フェア出展希望の有無

はい	いいえ
26	0

3. ご意見、ご感想

- ・学生の方が、来場したのを見かけることも出来なかったのが残念です。次回もあれば、と思います。
- ・周知活動をもっとするべきだったと後悔している。
- ・県主催の就職フェアに比べ、地元の方が多く、タイミングの良い面談が出来たと思う。
- ・名古屋などで開催される就職フェアよりも地域に密着しているので就職に結びつきそう方が多いと感じました。

□日中活動系連絡会作業部会就職フェアまとめ

- ・介護とコラボしたことで集客率は高まったのではないかな。
- ・来年度も介護事業所も全員参加したいとの意見から一緒にコラボしていく方向で介護事業所からもプロジェクトチームに参加し、障がいだけでなく介護も一緒に行うようにしていく。
- ・次回は日中活動系作業部会ではなく、自立支援協議会全体として行うようにしていきたい。